

国語科学習指導案

日 時： 平成26年10月10日（金）

14:10～15:00

クラス： 3年2組（男16名 女子18名）

授業者： 教諭 及川 圭司

1 単 元 「私の大切な人へ」 ～詩『初恋』『レモン哀歌』を通して～

2 単元について

(1) 生徒観

生徒は1年生の時から、文学的教材を通して心情読みを行ってきた。内容を捉えながら、登場人物の心情などを、個人に書かせたり、集団に話し合わせたりすることを通じて、他の考えを自分の考えに取り入れながら、文学的文章の人物の心情について進んでまとめることができるようになってきている。昨年行われた教研式CRT検査では、国語への関心意欲や語彙についての理解が全国平均よりも高い結果が出ている。しかし、文章などの読み取りなどを進んで考えようとする意欲については乏しい面もみられる。例えば、「自分で考え、自分の言葉で考察を書くのではなく、正解を待ち、考えずに答えを写して済まそうとする」姿が授業の中で見られ、互いの考えを積極的に交流しているとは言い難い。

また、読む領域の「表現や心情の読み取り」という項目が、全国水準と比較した際、若干の落ち込みが見られた。実際、文章表現から作者や登場人物の心情を考えることに、苦手意識を持っている生徒も多い。登場人物などの心情について直感的に答えることができるが、叙述表現から根拠を導くことを不得手としている。

そこで、本単元にある詩教材の鑑賞を通し、作品の批評の仕方をとらえさせ、作品の詩の叙述を基に批評させ、それぞれの批評を交流させる活動に取り組ませれば、ねらいに迫ることができるのではないかと考え、本単元を設定した。

(2) 単元観

本単元は、学習指導要領言語活動例「読むこと ア「物語や小説などを読んで批評すること」」を参考に単元を構成し、「同学年生徒の創作詩を評価する」ことを単元の学習課題とする。主教材として、詩『初恋』『レモン哀歌』を扱い、補助教材として、生徒の創作詩を扱うものとする。

言語活動例「ア「物語や小説などを読んで批評すること」とは、作品のよさや特性、価値などを論じたり、評価したりすることである。作品世界から感じ取れる情景や、作者の抱いた感情などを、根拠を明らかにして読み取り、自分の考えを持たせる。このように作品を批評することを通して、読む能力の育成を図るものである。

指導要領にもある通り、適切な批評をするには、作品を分析する力が必要である。本単元では最初、近代詩の名作といわれている『初恋』『レモン哀歌』の読み取りを行い、詩作品の批評の仕方を学習し、その後の詩の創作や、生徒作品を批評し合う活動に生かしていく。

新鮮な恋の感覚を文語定型詩で格調高く歌い上げた『初恋』。日本近代詩の黎明を告げる作品であり、多くの人々に長く読み継がれている作品でもある。愛する人との永遠の別離を静かにみずみずしく描き、妻への永遠の愛を高らかに歌い上げた『レモン哀歌』。日本近代詩を確立させ、口語自由詩を世に広めた高村光太郎。高村光太郎の詩集『智恵子抄』に掲載された作品である。これらの作品を読むことは、生徒の感性をさらに豊かにするだけでなく、自らの詩作にどう生かすかを考えることにもつながる。

本単元では、「私の大切な人」に対する詩を創作し、同学年の生徒作品を批評し合うことを、単元を貫く課題解決的活動として位置づけた。二編の詩の鑑賞から、生徒自らの内面に向き合わせ、身の回りの人々との関わりを題材として、表現の仕方に注意しながら、創作する。さらに、仲間の詩を読み合い批評する活動から、人との関わりやこれからの生き方について考えを深めていく。なお、批評する活動には、学び合い・話し合いを取り入れていきたい。

(3) 指導観

本単元は、学習指導要領 読むこと 内容(1)ウ「文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。」を目標とし、指導していく。

単元の導入として、生徒作品の詩について、指導者作の批評文を提示する。これにより、批評とはどのような学習活動なのかを示し、批評するための要素を示す。

次に、詩『初恋』『レモン哀歌』を読むことで、表現の特徴や言葉の効果的な表し方を学ぶとともに、作者の大切な人への心情を理解する。この学習を通して、詩作品を批評することを学び、生徒作品の批評へと活用させていく。

そして、二編の作品の学習を活かして生徒に、詩の創作に取り組みさせる。前段扱った二編の詩から、「私の大切な人」への“思い”の表現の仕方を踏まえ、「私の大切な人」に対する、自分の思いや自分の生き方を見つめながら、その人に呼びかける「詩」を創作させる。また、既習事項（詩の表現技法等）を振りかえさせ、詩の創作に役立たせる。本単元を通して、詩を読み取る力や生徒の言語感覚が磨かれていくものと考えている。

さらに、本時は、同学年生徒の作品を読み合い、意見交流を通して、批評する活動に取り組みさせる。具体的には、小グループを利用した話し合い活動を行い、優秀作品とその推薦理由を考える活動を行わせる。グループ内で選んだ理由（推薦理由）を明らかにさせ、それを全体に発表、選んだ作品も朗読させる。

これらの学習を通じて、詩を読みとる力や生徒の言語感覚が磨かれ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力が身についていくものと考えている。

3 単元目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

詩作品を進んで比較して読み、批評しようとしている。

(2) 読むこと

詩を読み比べて、構成や題材、表現の仕方に気づき、特徴や効果について評価している。

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に関わる事項

詩を読むことで、語感を磨き、語彙を増やすことができる。

4 単元の評価規準

ア：関心・意欲・態度	エ：読むこと	オ：伝統的な言語文化と国語の特質に関わる事項
①詩の形式を理解し、進んで作品の情景や作者の心情を味わおうとし、批評活動に活かそうとしている。	①一つひとつの語句の意図や表現の仕方に注意して、描かれている情景や心情を捉える。 ②同級生の詩を読む比べる中で、表現の仕方などについて自分の言葉で評価している。	①詩特有の表現の仕方に注意して読んでいる。

5 指導と評価の計画（7時間扱い）

次	時間	○ねらい ・学習活動	単元の評価規準	評価方法
一	1	○「詩」とは何かを説明しつつ、本単元の目標及び課題を提示する。 ・生徒作品を挙げ、詩中にある象徴的な言葉の意味について考える。 ・批評する観点を明示し、教師が批評の模範例を示す。	エの①	活動の観察 学習プリント
二	2	○表現の特徴を捉え、リズムを感じながら音読する。 ・詩『初恋』（教科書 P. 124）をリズムに合わせて音読する。 ・詩『初恋』を、現代語訳を頼りに詩中の内容を捉える。	アの① エの① オの①	活動の観察
	3	○効果的な言葉の使い方に注意して詩を読む。詩に描かれた人物の関係について考え、感想を持つ。 ・詩『レモン哀歌』（教科書 P. 198）を読み、作者の置かれた状況を考え、「智恵子」に対する思いを捉える。 ・詩中「レモン」の果たす役割について考える。	アの① エの① オの①	活動の観察
	4	○詩中の表現の特徴やリズムなどから、詩に描かれた作者の心情などを的確に表す。 ・『初恋』『レモン哀歌』のいずれかを選択し、それぞれの鑑賞文を書く。	ウの①	学習プリント
二	5 ・ 6	○『初恋』『レモン哀歌』の読解をもとに、「私の大切な人」に対して呼びかけた「詩」を創作する。 ・「私の大切な人」に対する、自分の思いや自分の生き方を見つめながら、その人に対して呼びかける「詩」を創作する。 ・既習事項（詩の表現技法等）を振り返らせ、詩の創作に役立たせる。	ウの②	学習プリント
	三 7 本時	○既習事項等を活用しながら、同級生の創作詩を批評する。 ・3年○組の創作詩より、優秀作品を選ぶ。 ・グループ内で選んだ理由（推薦理由）を明らかにさせ、それを全体に発表する。選んだ作品も朗読する。	エの②	活動の観察 学習プリント

7 本時の学習

(1) 本時のねらい

同学年生徒の作品を読み比べ、構成や展開、表現の仕方について評価することができる。

(2) 研究主題との関わり

【視点1】明確な学習課題の提示

本時では、隣のクラスの作品の中から優秀作品を選ばせるという、生徒にとっては極めて取り組みやすい課題を設定することとした。作者は自分にとって近い存在であり、描かれている内容も共感をもって読み進め、進んで課題に取り組めるものとする。

【視点2】学び合いを通して、思考力・判断力・表現力を高める授業づくり

本時の学習では、優秀作品を選ばせる際、グループ内での話し合い活動を取り入れる。対立する2つの作品の中から1つを選ぶのに、根拠をもって自らの立場を明らかにさせていく。また反論等を通して、思考力・判断力が養われるものとする。全体発表において、推薦文の発表、作品の音読などを行う。そこから、生徒の表現力の育成につながると思われる。

(3) 展開

過程	学習活動・学習内容・《形態》	指導上の留意点 ☆思考力・判断力・表現力を高める指導 ★学び合い[視点2]
導入 5分	1 今までの振り返り どのように詩を書いてきたか、何に注意して創作したか、について確認する。 2 本時の課題提示 3年1組ベストポエムを選ぼう。《推薦理由を明らかにして》	・テンポよく <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 同学年生徒の作品を選ぶという、生徒にとって身近で取り組みやすい課題を設定する。 〈明確な学習課題の提示[視点1]〉 </div>
展開 40分	3 活動の確認 《一斉》 (1)活動のねらいを確認する。 <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・1組の書いた創作詩の中から、よりよい作品を話し合いによって決定する。 ・必ず根拠（良いところ）を明らかにして話し合う。 </div> (2)活動の手順を確認する。 <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・手順 ①小グループ内で、2～3編の中から優秀作品を選ぶ。 ②生活班内で、小グループで選ばれた2作品のうち1作品を話し合いによって決める。 ③各班で選んだ作品を推薦理由と共に紹介する。 ・推薦基準（選ぶ観点） <ul style="list-style-type: none"> ・直接的な心情表現（うれしい、悲しいなど）を使わず、表現している。 ・比喩（直喩・隠喩・擬人法）を効果的に使用し、表現している。 </div> 4 小グループ（2～3）内で優秀作品を選ぶ。 《小グループ》 <ul style="list-style-type: none"> ・無作為に選んだ2～3編の作品を渡し、よりよい作品1編を選ぶ。 ・選んだ理由も明記する。 5 大グループ（5～6人）内で優秀作品を選ぶ。 《大グループ》 <ul style="list-style-type: none"> ・2つのグループを合わせ、生活班にする。 ・生活班内で、2つの作品のうちからどちらがよいか討論し、1作品を優秀作品として選ぶ。 ・進行役は、教師側で予め決めておく。 6 各班で選んだ作品を推薦理由と共に紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> ・各班では、選んだ作品を音読する者、推薦理由を発表する者を割り当てる。 ・選んだ作品の題名（作者名は明かさない）、推薦理由を要約したものをカードに書く者も割り当てる。 ・各班の発表 音読、推薦理由の順で行う。 	・学習プリント配布 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ★少人数による話し合い活動 〈根拠を明らかにして自分の立場を主張する。〉 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ★中人数による話し合い活動 〈立場を明確にし、ディベート形式で話し合う。〉 ・小グループで選んだ作品を最後まであきらめずに推薦するようにする。（安易に選ばせない。） </div> ☆推薦理由の作成、音読の仕方などを考える。 ・発表者以外は、メモを必ずさせるようにする。
整理 5分	7 6つの作品の中から最優秀作品を挙手にて決める。 8 まとめ 〈本時の振り返り〉 <ul style="list-style-type: none"> ・「観点沿って、詩を選ぶことができたか。」「他の人の記述から、自分の記述に生かしたいこととは何か。」などを自己評価する。 	・詩の内容、推薦理由をもとに選ぶよう告げる。 ・学習プリントへの記入、回収。

